

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 26 年 10 月 30 日 (2014.10.30)

【公開番号】特開 2013-76042 (P2013-76042A)

【公開日】平成 25 年 4 月 25 日 (2013.4.25)

【年通号数】公開・登録公報 2013-020

【出願番号】特願 2011-218375 (P2011-218375)

【国際特許分類】

C 0 8 G 63/193 (2006.01)

C 0 8 G 63/79 (2006.01)

C 0 8 L 67/03 (2006.01)

C 0 8 L 69/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 63/193

C 0 8 G 63/79

C 0 8 L 67/03

C 0 8 L 69/00

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 9 月 11 日 (2014.9.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

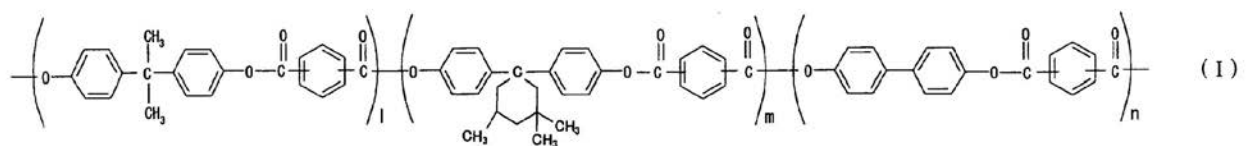
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

二価フェノール残基と芳香族ジカルボン酸残基とから構成され、下記式 (I) で表されることを特徴とするポリアリレート樹脂 (A)。

【化 1】



[なお、式中、 l 、 m および n は、 $l + m + n = 100$ (モル%)であって、 $l : n = 50 : 50 \sim 70 : 30$ (モル比)かつ $(l + n) : m = 75 : 25 \sim 40 : 60$ (モル比)をみたす]

【請求項 2】

インヘレント粘度が $0.50 \sim 1.00$ であることを特徴とする請求項 1 記載のポリアリレート樹脂 (A)。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載のポリアリレート樹脂 (A) の製造方法であって、水相とジクロロメタン相の 2 相からなる界面重合法で重合されることを特徴とするポリアリレート樹脂 (A) の製造方法。

【請求項 4】

請求項 1 または 2 記載のポリアリレート樹脂 (A) とポリカーボネート樹脂 (B) とを、質量比で $(A) / (B) = 90 / 10 \sim 30 / 70$ で配合したものであることを特徴と

するポリアリレート樹脂組成物。

【請求項 5】

請求項 4 に記載のポリアリレート樹脂組成物を成形してなる成形体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

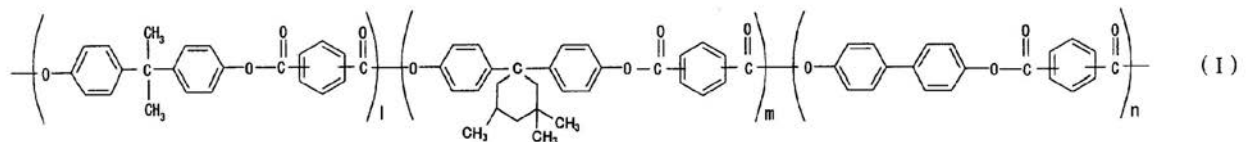
【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

(1) 二価フェノール残基と芳香族ジカルボン酸残基とから構成され、下記式 (I) で表されることを特徴とするポリアリレート樹脂 (A)。

【化 1】



[なお、式中、 l 、 m および n は、 $l + m + n = 100$ (モル%)であって、 $l : n = 50 : 50 \sim 70 : 30$ (モル比)かつ $(l + n) : m = 75 : 25 \sim 40 : 60$ (モル比)をみたす]

(2) インヘレント粘度が $0.50 \sim 1.00$ であることを特徴とする(1)のポリアリレート樹脂 (A)。

(3) (1)または(2)のポリアリレート樹脂 (A)の製造方法であって、水相とジクロロメタン相の2相からなる界面重合法で重合されることを特徴とするポリアリレート樹脂 (A)の製造方法。

(4) (1)または(2)のポリアリレート樹脂 (A)とポリカーボネート樹脂 (B)とを、質量比で $(A) / (B) = 90 / 10 \sim 30 / 70$ で配合したものであることを特徴とするポリアリレート樹脂組成物。

(5) (4)のポリアリレート樹脂組成物を成形してなる成形体。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

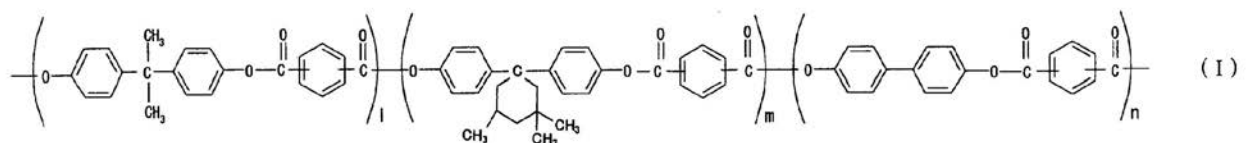
【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

【化 2】



[なお、式中、 l 、 m および n は、 $l + m + n = 100$ (モル%)であって、 $l : n = 50 : 50 \sim 70 : 30$ (モル比)かつ $(l + n) : m = 75 : 25 \sim 40 : 60$ (モル比)をみたす]

